



青森県漁業士会会報

浜風

HAMAKAZE

2.4 vol.27

発行：青森県漁業士会

青森県水産振興課内

017-734-9592

編集：「浜風」編集委員会



令和元年度青森県漁業士会総会開催

令和元年5月24日（金）、青森市で青森県漁業士会通常総会が開催され、令和元年度の事業計画等について審議を行いました。

また、総会に引き続き行われた研修会では、水産庁 矢花氏、竹川氏から、「水産政策の改革 ～浜で頑張る漁業者の皆様を応援します～」と題して講演が行われました。

また、（一社）フィッシャーマン・ジャパン 長谷川氏から、「カッコいい、稼げる、革新的な水産業で浜を元気に」と題して講演が行われました。



総 会



研修会（水産庁）



研修会（フィッシャーマンジャパン）



新名誉漁業士の紹介

三津谷 秀子（平内町漁協）

根上 定男（新深浦町漁協）

濱田 照男（大畑町漁協）

新会員の紹介

令和元年度は、青年漁業士から指導漁業士に移行する2名が認定されました。

認定式は、令和2年1月22日に第61回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会の場で行われ、知事から認定証が授与されました。



○新指導漁業士の紹介

東青漁業士会



青森市漁協
鷺尾 輝雄
(ホタテガイ養殖)

この度、指導漁業士の認定を受けました青森市漁協の鷺尾です。

私はホタテ養殖を営む3代目です。

これまで、東青漁業士会の研修会や学習会、食育活動等を通じてホタテ養殖以外の漁業者とも交流する機会が増え、県内の様々な漁業についても知識を深めることができました。

今後は、学習会等で得た情報や人のつながりを財産に、地元の漁業士と一緒に活動に取り組んでいきたいと考えています。



平内町漁協
八戸 翼
(ホタテガイ養殖)

この度、指導漁業士の認定を受けました平内町漁協の八戸です。

私はホタテ養殖を始めてから20年が経過しました。これまで養殖に係る様々な問題を自分なりに考え、解決しながら養殖を続けてきました。

また、漁業士活動を通じてホタテ養殖以外の漁業や県内外の活動について知識を深めることができました。

今後は、こうした知識をホタテ養殖や地元の研究会活動に活かしていきたいと考えています。



令和元年度東北・北海道ブロック漁業士研修会

むつ支部会 横浜町漁協 秋田正明

今年度の東北・北海道ブロック研修会は令和2年1月15日に北海道札幌市において開催されました。青森県漁業士会は東青漁業士会から田中会長を含め6名、むつ支部からは私を含め3名が出席しました。

研修会に先立って行われた東北・北海道ブロック協議では、令和2年度全国漁業士連絡会議で提案するディスカッションテーマについて協議され、各県の出席者からは海の環境の異変や水揚げされる魚種の変化に関する話があがったため、昨今の環境変動と漁業への影響に関することがテーマとなりました。各県漁業士が感じていることは、形は違えど皆同じなのだと協議を通して認識しました。

その後行われた研修会では、まず北海道漁業士会 遠田城義指導漁業士による宮城県での笹かま工場見学及び豊洲市場現地視察の報告があり、続いて同じく北海道漁業士会 田中郁子指導漁業士から浜のマドンナで組織される団体「ハマドンナ」の料理教室による魚食普及活動が報告されました。その後、各県の漁業士会の活動が報告され、最後に講演として東海大学 関いずみ教授による漁村地域に関するお話しがありました。



遠田城義指導漁業士の報告

研修会終了後の交流会においても意見交換が行われ、私は北海道猿払村の漁業士と地まきホタテに関する意見交換をし、大変有意義な時間を過ごすことができました。

次回開催県は岩手県で、令和2年6月2日開催予定です。多数の参加をお願いします。



田中郁子指導漁業士の報告



関いずみ教授による講演



令和元年度日本海ブロック漁業士研修会

日本海支部会 鮭ヶ沢漁協 長内詩子

令和元年8月21日～22日、日本海ブロック漁業士研修会が石川県金沢市にある石川県水産会館で開催され、青森県からは2名の漁業士が参加しました。

1日目は、開催県からの話題提供で、石川県水産総合センター海洋資源部研究主幹 四方崇文さんから「石川県の水産業の概要、イカ釣り漁業～誘集・漁獲の仕組み～」を、石川県漁業士会長 達明弘さんからは「能登とり貝養殖の取り組み」と題してお話がありました。

四方さんからは、イカが集まってくるためには、船影が重要であるといった研究結果などが紹介され、私たちにとっても馴染みのあるイカ釣り漁業を科学的に研究した内容を聞くことができ、大変勉強になりました。

達さんからは、地元の特産品である能登とり貝について、養殖するに至った経緯や取組内容について話していただきました。今後は、石川県水産総合センターと協力しながら、品質向上の技術を高めていくとともに、イベントなどにも積極的に参加してPR活動を行っていくとのことで、他地区での活発な活動報告を聞き、刺激を受けました。

2日目に行われた金沢市中央卸売市場の視察では、「二番セリ」と呼ばれる朝8時半頃に行われるセリを見学し、そのスピードに圧倒されました。最後に見学した金沢港いきいき魚市場では、仲卸業者だけではなく漁業者自らが鮮魚・加工品の販売を行っていました。漁業者さんにお話を伺ったところ、売れ行きは好調とのことで、6次産業化の成功例を目の前で見ることができ、私たちの今後の活動を考えるうえでとても参考になりました。

今回の研修会で見て・聞いた内容を活かしながら、今後も浜のリーダーとして頑張っていきたいです。



研修会の様子



金沢市中央卸売市場



金沢港いきいき魚市



令和元年度東日本女性漁業士交流会

むつ支部会 脇野沢村漁協 立石由喜子

令和元年8月27日～28日、東日本女性漁業士交流会が岩手県宮古市にて開催されました。

1日目の講演では共和水産株式会社代表取締役鈴木良太さんによる地域課題に寄り添った商品作りについてのお話がありました。

共和水産は岩手県産スルメイカを使用した加工品を作り続けてきましたが、近年はスルメイカの大不漁により苦境に立たされていました。そこで、日本一の水揚げを誇りながらも活用されていなかった宮古のマダラに注目し、鮮度落ちが早い、家で処理した際には歩留りが悪くゴミが出やすい

といった弱点のうち、鮮度については水揚げする産地だからこそ高鮮度な商品を提供できるという強みに変え、歩留りとゴミの問題については消費者の手に取りやすい形に加工することで克服しました。そして、地元企業との連携や地元イベントへの出店を通して地域を巻き込んでいくことで、地元を代表する商品とすることができたそうです。

脇野沢も青森を代表するマダラの産地ですので、今回の講演を参考に水揚げする水産物の付加価値向上に努めていきたいと思います。

講演後に行われた宮古地域振興センター 所長 吉田真二さんによるさんさ踊りの紹介と演習では参加した女性漁業士全員が実際に踊ることで女性漁業士同士の交流を深めることができました。

2日目は三陸鉄道レトロ列車へ乗車予定でしたが、前日夕方からの豪雨の影響で列車が運休し、急遽、岩手県立水産科学館と浄土ヶ浜の見学をすることとなりました。レトロ列車に乗れなかったことは少々残念でしたが、水産科学館に展示されている魚や浄土ヶ浜を見ることで、三陸とは、どのような土地で、そこで行われる漁業や水揚げされる魚介類の理解を深めることができました。



講演の様子



岩手県立水産科学館見学の様子

来年は本県での開催となりますので、岩手で交流を深められた東日本各県の女性漁業士とまた会える日を楽しみにしています。



支部会トピックス

○東青漁業士会

野辺地町漁協 吉田 東

東青漁業士会は毎年10月に青森市スポーツ広場わくわくランドで行われる「あおもりマルシェ」に出店しており、毎年20人程の会員が参加しています。

出品物は、冷凍ボイルホタテをフライパンで焼いてバターを絡めたホタテバターとイカー夜干しを網で焼いたイカ焼きを販売しております。

昨年は天候も良く、販売と同時にたくさん人で行列ができ、作る方が間に合わない状態になりました。

青森市のスーパーでもホタテは売られていますが、マルシェでホタテバターを買われた方の話を聞くと味がいいと評判でした。イカ焼きも好評で、昼過ぎには完売となりました。

他にもたくさんの出店がありますので、マルシェ開催日に青森市に遊びに来てみるのもいかがですか？

今年も天候に恵まれて、たくさんの方に陸奥湾ホタテを堪能してもらいたいです。



あおもりマルシェ出店ブース
(青森ほたての旗が目印)



冷凍ボイルホタテを汗をかきながら焼いています

令和2年2月12日に八戸市グランドホテルにおいて、研修会を開催し、国立研究開発法人水産研究・教育機構東北区水産研究所沿岸漁業資源研究センターさけます資源グループ 高橋グループ長と小松主幹技術員を講師に招き、「令和元年度のサケ来遊状況と想定される減少要因及び今後の資源造成」について、御講演をいただきました。

当支部会員だけでなく、八戸水産事務所管内のふ化場関係者等も参集し、全国で不漁が深刻化しているサケの資源状況と対策について理解を深めました。

令和元年度に本州へのサケの来遊が悪かった要因として、4年前の稚魚放流時の沿岸域が高水温であったことや、それに伴い例年より餌環境が良くなかったことが考えられ、今後は、種卵を確保するとともに、いかに健康な稚魚を多く放流できるかが重要であるという内容で、資源回復のためには我々漁業者とふ化場及び行政の協力が不可欠であると再認識しました。

また、今期、海産親魚を内水面漁協に提供する取り組みを行った八戸市南浜漁協 深川組合長から「川、海とも困窮しているが、互いの漁業者が話し合う場をつくり、できることから頑張っていきたい」と、参加者に協力を呼びかけ、研修会後の懇親会では、今後の連携に向け交流を深めました。



令和元年10月7日、11月27日の2日間、鯔ヶ沢町立西海小学校3年生を対象に、魚を獲ってから食べるまでの一連の流れを教える水産教室を開催しました。

10月7日は、鯔ヶ沢漁港において小山内実指導漁業士が講師となり、自身が行っている底建網漁業の仕組みや獲れる魚についてや、獲った魚を自らがイベントで売る「6次産業化」の取り組みを行っていることを説明しました。子供たちは熱心に耳を傾け、見慣れない漁具に興味津々で目を輝かせながら質問していました。

11月27日には、これまで女性漁業士として料理教室を数多く行ってきた長内詩子指導漁業士を講師として、前回習った底建網漁業で獲れる魚の一つで、県の魚でもあるヒラメについての話をした後、子供たちの前で実際にヒラメをさばいてみせました。

最後に、ヒラメのムニエルやすまし汁等の料理を子供たちにふるまい、子供たちのみならず先生方からも来年の開催を望まれ、大変好評でした。



水産教室（10月7日）



水産教室（11月27日）

むつ支部会は、総勢69名の会員が在籍しており、子供たちを対象とした水産教室、年2回開催する研修会、各漁協での海浜清掃、生産者による豊漁・豊作祈願祭などの活動を通じて、下北地域の漁業振興・魚食普及、またそれに向けた知識の習得に努めています。

生産者による豊漁豊作祈願祭は、令和元年10月5日に開催され、この度26回目を迎えました。昨年は来場者振る舞い用のスルメイカ・サケが不漁の年でありましたが、むつ支部会員の協力もあり、爽やかな秋晴れのなか例年通りに開催することができました。イベント中は来場された市民の方々と交流しつつ、今後の豊漁豊作を祈願しました。

研修会については、令和元年12月18日に令和元年度第2回研修会を、令和2年2月25日には令和2年度第1回研修会を開催しました。12月の研修会では、県総合販売戦略課 森恭子主幹から「漁業の6次産業化について」、むつ水産事務所 大澤幸樹主査からは「魚が獲れない今だからこそ自ら動いてみませんか」と題して講演していただきました。

また、2月の研修会では東北区水産研究所 高橋史久グループ長から「近年の海洋環境を鑑みたさけふ化放流事業の各項目毎の整理と今後の推奨について!」、佐々木系研究員からは「2019年漁期のサケ資源の減少と今後の動向について」と題して講演していただいたほか、第61回青森県漁村青壮年女性団体実績発表大会で優秀賞を納めた「海峡口デオ大畑」会長の佐藤敏美青年漁業士からむつ支部会員に向けて改めて発表してもらいました。

当支部会においては、研修会で学んだことも生かしながら、イベント等を開催することで、少しでも浜の賑わい再生の一助を担っていきたいと思っておりますので、関係機関の皆様には引き続き御支援、御協力をお願いいたします。



祈願祭の様子



研修会の様子

第61回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会

令和2年1月22日、青森市の県民福祉プラザにおいて「第61回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会」が開催されました。4人の発表者がそれぞれのテーマに沿って、その活動の実績を発表しました。

漁業技術部門の優秀賞には「「海峡ロデオ大畑」の出航 一漁師から始まる地域振興一」を発表した、海峡ロデオ大畑 佐藤 敏美さんが選ばれました。

佐藤さんは、令和3年3月に開催予定の「第26回全国青年・女性漁業者交流大会」で、本県代表として発表することになりました。

また、生活改善部門では、「家族で、地域で「健康づくり」 一養殖ホタテ日本を支えて一」を発表した、平内町漁業協同組合女性部 能登谷 いづみさんが優秀賞を受賞し、令和2年3月3日～4日に開催予定の全国大会にて発表することとなりました。



※ 来年度以降、大会の名称が「青森県青年・女性漁業者交流大会」に変更となります。

※ 「第62回青森県青年・女性漁業者交流大会」の開催日は、令和3年1月27日(水)の予定です。

第25回全国青年・女性漁業者交流大会

標記大会は、新型コロナウイルスの感染防止のため中止となり、発表資料と発表用パワーポイント資料により審査が行われました。審査の結果、野辺地町漁業協同組合刺網・底曳・底見漁業者連絡協議会 熊谷 浩さんの「なまこと魚でがっちり！一地先資源を増やして活用一」が、農林中央金庫理事長賞を、平内町漁業協同組合女性部 能登谷 いずみさんの「家族で、地域で「健康づくり」 一養殖ホタテ日本を支えて一」が、JF共水連会長賞を受賞しました。



水産振興課から

農林水産部水産局水産振興課
企画・普及グループ

あおもり漁業就業者確保支援事業

県では、平成30年～令和元年度に「あおもり漁業の魅力体験事業」によって、漁業就業に興味や意欲のある方に、漁業の魅力を積極的に発信し、さらに体感してもらうことで本県での就業を促す取組を行いました。

令和2年度は、上記の取組を全県的に拡大するため、**あおもり漁業就業者確保支援事業**を実施し、引き続き、漁業体験教室の開催やインターンシップの受入れ等に対する支援及び（一社）全国漁業就業者確保育成センターHP（漁師.jp）への求人情報の掲載支援等を実施しますので、新規就業者の受入れ希望がありましたら、水産振興課または各地区の水産業普及指導員へお気軽に御相談ください。



あおもり漁業体験教室
(上：むつ市大畑、下：八戸市南浜)

「あおもりの肴」消費拡大レベルアップ事業

「あおもりの肴」消費拡大レベルアップ事業では、漁業者が自分で獲った水産物を県内量販店で自ら立ち売りする「あおもりの肴フェア」を開催するなど、県産水産物の消費拡大に取り組んでいます。

毎月1回以上開催しており、随時参加漁業者を募集しています。漁協の研究会や青年部、女性部などで立ち売りに興味がありましたら水産振興課まで御連絡ください。



「あおもりの肴フェア」で自分で
とった魚を販売する漁業者

あおもりの肴
Facebook



あおもりの肴
キッチン



あおもりの肴

検索



浜風編集委員

伊勢田 啓 二（白糠漁協）
関 野 稔（八戸鮫浦漁協）
坂 崎 祐 也（風合瀬漁協）
吉 田 東（野辺地町漁協）



青森県漁業士会会報「浜風」2.4 vol.27
